

学会発表（所属については発表時のものを記載した。）

食中毒事例から分離されたカンピロバクターの
分子疫学解析

鈴木康仁 井澤麻由 池田伸代

坂本 綾 児玉 実 石村勝之

第28回生活衛生関係業績発表会

（兼地域保健研究会第二分科会）

2015. 3. 18 広島市

市内のカンピロバクターを原因とする食中毒は最も頻度の高い細菌性食中毒となっており、散発、集団共に発生している。平成26年度はカンピロバクターを原因とする集団食中毒事例が例年に比べ多く発生した。そこで分離された菌株間の詳細な比較を行うため、パルスフィールドゲル電気泳動による分子疫学解析を行った。その結果、解析した38株において事例内で患者、鶏肉由来株の遺伝子型が一致したことから鶏肉が何らかの形で原因に関与したことが示唆された。また異なる事例の株でも遺伝子型が一致する株が多数存在したことから、同一の汚染源が由来である可能性が示唆された。

感染症発生動向調査事業における呼吸器感染症患
者からのウイルス検出状況(2012～2013年)

藤井慶樹 田中寛子 山本美和子

京塚明美 石村勝之

第60回中国地区公衆衛生学会

2014. 8. 20 岡山市

2012～2013年の2年間にわたり、感染症発生動向調査事業で搬入された呼吸器感染症患者由来の検体からのウイルス検出状況を調べた。検索対象ウイルスはRSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルス、ライノウイルス、ヒトボカウイルス、パラインフルエンザウイルス1, 2, 3型の計9種類とした。

調査の結果、各ウイルスの季節的な流行状況、年齢別の検出状況、臨床症状の比較等を詳細に解析することができた。さらに、呼吸器感染症ではウイルスの単独感染だけでなく、複数のウイルスが検出される重複感染例が約2割の症例で認められることが明らかになったが、単独感染と重複感染により、臨床症状に差があるかどうかは不明であった。また、重複感染例において、どのウイルスが真の起因病原体であるかを究明することはできなかった。

同一事例で検出されたノロウイルスGⅡ/4のN/S領
域における塩基配列差についての検討

藤井慶樹 田中寛子 瀧口由佳理

山本美和子 京塚明美 石村勝之

第28回生活衛生関係業績発表会

（兼地域保健研究会第二分科会）

2015. 3. 18 広島市

ノロウイルスGⅡ/4 Sydney 2012亜型を対象として、N/S領域における塩基配列を比較した結果、調理従事者からウイルスが検出された食中毒事例に比べて、二枚貝を喫食している食中毒・有症苦情事例では、同一事例内の患者間で同領域の塩基配列に1～2塩基程度の差が認められることが多い傾向にあった。

これらのN/S領域における1～2塩基配列差は、遺伝子的な多様性に富むP2ドメイン領域の解析結果から、患者体内でのウイルスの変異によって生じたものではなく、遺伝子型は同じノロウイルスGⅡ/4 Sydney 2012亜型でありながら、塩基配列を微妙に異にする複数のウイルスの混合感染が関与している可能性が高いことが分かった。

広島市で検出されたA型肝炎ウイルスの
分子疫学的解析

山本美和子 伊藤文明*1 野田 衛*2

第62回日本ウイルス学会学術集会

2014. 11. 10～12 横浜市

2012年1月～2014年5月に検出されたA型肝炎ウイルス(HAV)24検体を、既存及び新たに設計した3種類のプライマー組を用いてVP1コード領域全長を含む領域について解析し、塩基配列を決定した。2014年3月に検出された8検体は2014年IA(広域型)であり、そのうち7検体の塩基配列は100%一致した。また、過去の同一感染が推定されたHAVの塩基配列も、それぞれの事例間で100%一致した。2014年3月に検出された8検体は、疫学的に関連する可能性が高いことが考えられた。

*1：広島市南保健センター

*2：国立医薬品食品衛生研究所

広島市東部地域における環境大気中
ダイオキシン類調査について

村野勢津子 原田敬輔 福田 裕

細末次郎

第41回環境保全・公害防止研究発表会

2014. 12. 10～11 神戸市

本市では、平成10年度から環境大気中ダイオキシン類の常時調査を実施している。これまでに環境基準を超えた地点はなかったが、市域の東部に位置する1地点は調査当初から継続して高濃度となっている。

そこで、原因究明のために、平成20年度及び平成25年度に広島市の東部地域で追加調査を実施した。

今回、常時調査をとりまとめた結果と追加調査結果を比較検討した。その結果、広島市の東部地域ではPCDD及びPCDF濃度の合計が他の地点よりも高く、DL-PCB濃度については地点間の差はあまりなかった。